

令和6年度 学校関係者評価書			
	鈴鹿市立深伊沢小学校		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	<p>1 授業改善 ・全教員のICTを取り入れた研究授業実施 →学校アンケートによる検証</p> <p>2 読書活動の推進 ・貸出冊数の増 →昨年度との比較 ・図書巡回指導員の活用 →全学年学期1回以上</p> <p>3 基礎学力の定着 ・ボランティアの活用(プリント学習等) →児童アンケートによる検証</p> <p>4 教員のICT活用力の向上 ・ICT活用についての研修実施 →年3回以上</p> <p>(成果と課題) ・学校アンケートで「ICTの活用によりわかりやすい授業をしている」の結果が大きく向上した。(87.7%→92.3%) 研究授業や職員研修で、わかりやすい授業を目指した結果と考える。 ・図書委員によるイベント開催や、本の紹介や読み聞かせなどで図書巡回指導員を活用したことで、わずかに読書冊数が増加した。 ・ボランティアの人数は減っているものの、生活科・家庭科・プリント学習などで支援いただき、子どもの意欲向上につながった。</p>	<p>○ICT活用状況を学校だよりで報告していて、理解しやすい。 ○「わかりやすい授業」がアンケート結果で5%ほど上昇しているのは評価できる。 ○アンケート結果は向上しているが、不満足な回答もあり、これを解消し、向上するような指導が必要ではないか。 ○小学校での基礎学習のつまづきは、先々の学習に影響する。児童がわかりやすい方法、支援をお願いしたい。 ○成果が出て良かったと思うが、課題をはっきりさせ、今後どんな弱みを克服していくか、具体的手立てをどうするか、考える必要がある。 ○教員のレベルの一定化に、研修等を活用してほしい。 ○ICTは子どもも先生も活用できるようになってきたと思う。ぜひ地域の人にいろいろできるICT活用の授業を見てもらおうと意欲の向上へつながるのではないか。</p> <p>○読み聞かせの時間は、どの学年もしっかり聞いてくれ、やりがいを感じる。 ○児童が本に親しむため、週1度読書の時間をつくってはどうか。 ○朝やお昼に自分の好きな本も持ってきて5分間読書はどうか。たくさんの本を読んで欲しい。</p> <p>○広く地域に呼びかけ、人材確保をする。 ○ボランティア募集方法をもっと工夫しても良い。</p>	<p>・引き続き、教員のICTの研修は続けていく。 ・満足していない子へは、個々に応じた手立てを具体的に決め実行する。 ・授業参観等で、ICTを活用した授業を行う方向で考える。</p> <p>・週1回、朝の学習の時間を読書に決めて取り組んでいく。図書の担当や図書委員会を中心に、本に親しむ機会を作っていく。読書週間の取組も継続する。 ・朝の読書で、落ち着いた一日の始まりをねらってほしい。</p> <p>・プリント学習は、基礎定着のために、学期に1回行うことで継続していく。 ・今は、補充学習を行いたくても、休み時間や放課後に残す時代でない。遅れ気味の児童には、かいつまんでポイントを押さえる指導を行い、家庭での協力も得る。</p> <p>・引き続き、ボランティアさんに協力をお願いする。</p>
長欠・不登校対策	<p>1 新たな長期欠席児童を生まない ・欠席理由の把握 →児童理解支援シートの作成</p> <p>2 スクールカウンセラー、外部機関の活用 ・月1回のカウンセリング時間の活用充実 →利用した保護者からの聞き取り</p> <p>(成果と課題) ・欠席の心配な子どもの保護者と密に連絡をとり話をしていくことで、30日以上長期欠席はなくなった。 ・保護者も子どもも、またカウンセリングを受けたいとの声が聞かれ、安心感をもって子どもが学校生活を送る一助となった。</p>	<p>○挨拶運動や下校見守り時など、目にする子どもたちはとても落ち着いて、おだやかな印象で、いい学校生活を送れていると感じる。 ○地道に児童の様子を把握し、個性を見極め、対応してもらっていて、保護者と連絡を密に意思疎通が行われ、改善がみられる。 ○先生方の細やかな対応、声掛けに感謝する。そのおかげで登校できるようになり安心したとの声も聞かれる。 ○今の時代はいろいろ難しくなっている。先生方ご苦労さまです。 ○学校に来れない子がいなくなるよう、今後もスクールカウンセラーなどと協力して取り組んでほしい。 ○「学校は楽しい」という気持ちを持ってもらうような指導をお願いしたい。</p>	<p>・今後も、子ども一人ひとりの状況を丁寧に把握し対応していく。スクールカウンセラーの活用とともに、保護者との連携を深めていきたい。</p>
地域との協働	<p>1 FCE2024の開催 ・土曜開催し、地域(学校運営協議会)及びPTAと合同企画運営 →学校アンケートによる検証</p> <p>2 環境整備 ・PTA及び有志による環境整備作業の実施 →年3回以上</p> <p>(成果と課題) ・FCEを通し、地域やPTAとより連携を深めることができた。子どもたちは様々な運動を楽しみ、たくさん笑顔を見ることができた。 ・PTAによる年3回の環境整備、伊船里井水会の除草や花壇、おやじの会の池の清掃などのおかげで、子どもが安心できる学校環境の中で過ごせた。</p>	<p>○テーマを決めて行うFCEは、参加児童の事前準備がよかった。 ○スポーツのテーマで、推進委員・PTA・地域の共同で開催でき、主人公の子どもが楽しんでいたのがよかった。今後も地域の一員として、協力していきたい。 ○親子で参加できる取組があるとよいと思うが、さらに忙しくなると本末転倒なので何をやるかです。 ○FCEはとても良かった。地域の参加を増やす事をもっと考えて欲しい。 ○日程が1か月早まり、野菜の価格に影響した。地域づくり協議会の協力が得られないか提案を検討中。たくさん地域の方に興味をもってもらいたい。</p> <p>○地域と連携し、学校が快適に整備されている。 ○PTA等ボランティア活動が積極的に行われているようで、地域の協力がとても多くてよいと感じる。 ○環境整備の回数が減り、PTA数が減少する中、いかに環境を保っていくか、地域の協力もできるようにと感じる。</p>	<p>・FCEに、地域の方に企画段階から参加していただき、いいサイクルができてきた。地域の方々にとっても感謝している。来年度も継続し、学校・保護者・地域の協働で、開催したい。</p> <p>・たくさんのボランティアさんに支えられ、大変助けていただいた。子どもたちのためにも、次年度もお願いしたい。</p>
非認知能力の育成	<p>1 児童の非認知能力の現状把握 ・全学年児童アンケート及び授業の実施 →児童アンケートによる検証</p> <p>2 縦割り班活動の充実 ・縦割り遊び、縦割り掃除の実施 →児童の感想 (成果と課題) ・5月と比べ11月の非認知能力についてのアンケートでは、3つの項目(※注1)に向上が見られた。 ・縦割り班活動は、6年生では計画を立ててやりぬこうとする力や責任を持つ意識の高まりが感じられた。低学年からは、楽しかったという声がたくさん上がり、6年を良い手本とし、思いやる姿など見られた。</p>	<p>○縦割り班活動で、6年生の自主性を感じる。 ○小規模校独自の縦割り班活動はよい。高学年が低学年を思いやる姿が見えて素晴らしい。 ○日常的な異年齢交流は、子どもの成長にとってとても大事なことである。学校生活にしっかりと位置づけられているのは、よいと思う。 ○低学年でもできる縦割り班活動を実施することが必要。 ○行事や通学時、高学年から低学年へ、お手本になる姿がよく見られる。6年生は最高学年としての思いを感じ、低学年はそれをよく見ていてお手本にしている。</p>	<p>・異学年交流である縦割り班活動は、本校において大切な取組である。次年度も継続して取り組んでいく。 ・高学年では、ポジティブメッセージカードや非認知能力向上にむけ、毎月の目標設定に取り組み、自己評価することで、児童が意識することができている。毎月取り組むことで、児童が自己分析できるようになってきた。また、友達のよいところを見つめることができるようになってきた。</p>
特別支援教育	<p>1 人権教育の推進 ・いじめや差別を許さない学級づくりと研修会の実施 →学校アンケートによる検証</p> <p>2 特別支援教育の推進 ・教員の研修会実施 →学校アンケートによる検証</p> <p>3 支援会議の充実 ・子どもと保護者に寄り添った会議開催と内容の充実 →保護者からの聞き取り</p> <p>(成果と課題) ・いじめ防止強化週間に合わせたいじめ防止の学習、中学校区人権フォーラムに合わせた人権集会などの取り組みもあり、学校アンケート「一人ひとりの子を大切に、認め合える仲間づくりに取り組んでいる」の結果が向上した。 (88.5%→90.7%) ・特別支援教育への理解が教職員研修により深まった。必要に応じた支援会議を適宜開催できたことで、保護者の理解を得られ、子ども一人ひとりの今後の見通しへつながった。</p>	<p>○校区人権フォーラムで、各校の子どもが活発に意見交換していた。あの場で話したことを、各校でさらにいじめが無い学校になるよう、みんなで取組を進めてほしい。 ○人権フォーラムの子ども発言は、とても立派だった。 ○人権フォーラムで、各校きちんと人の話を聞く姿勢ができていたと感じた。 ○参加した運営協議会委員の様子に気になる点があった。子ども中心の会議なので、今後委員がどのように関わっていくのか、せつかく他校との関わりを大切に、子どもたち、委員と考えたい。 ○家庭内でのいじめ防止の啓発を、パンフや講演会活用の方で実施すればいいと思う。 ○人のいやがることをしないという心を大切に育ててほしい。</p> <p>○子どもの個性に合わせた対応ができています。 ○支援が必要な児童の周囲へも、声をかけてあげてほしい。関わり方で困ったりすることもあろうと思う。次へつながる関わりをしていきたい。</p>	<p>・次年度も、人を思いやり、いじめをしない許さないという心を育てる指導を、全校で行ってほしい。 ・いじめをなくすための取組や人権集会等、学校での取組を、学校だより等で家庭や地域に知らせたい。できれば、授業参観でもできるといい。</p> <p>・次年度の校区人権フォーラムは、子どもの主体性を大切に、大人は見守るスタンスでお願いしていく。</p>
学校経営	<p>1 学校からの情報発信 ・月2回以上「学校だより」「学年だより」の発行 →学校アンケートによる検証</p> <p>2 働き方改革の推進 ・月3回定時退校日の設定 →勤務状況調査結果 ・時間外労働月45時間超0人 →勤務状況調査結果</p> <p>(成果と課題) ・学校アンケート「学校は教育方針や活動内容をわかりやすく伝えていく」の結果がさらに向上した。 (95.4%→96.6%) ・月3回の定時退校は、85%の達成率であった。持ち帰り仕事も多く、改善策が今後も必要である。</p>	<p>○情報発信はマチコミを通して、満足している。 ○学校だよりを楽しみにしてみえる地域の高齢の方もみえ、ペーパーレスにしないでほしいという声を時々聞く。</p> <p>○運動会が1か月後ろになり準備に要する時間は以前と比べどうだったか。楽しく、自身に満ちた子どもの笑顔が印象的。働き方改革の中、あれだけの準備は大変だと思うが、保護者・地域の皆さんも安心されたと思う。 ○働き方改革をどんどん実施し、心にゆとりを持って子どもに接してほしい。 ○持ち帰り仕事など、数字に表れない時間外勤務が多くあると思う。子どもを指導する先生が、心身ともに健康なのが大事なので、更なる取組をお願いする。 ○教師の持ち帰り仕事を減らす手立てとして、何か策を講じているのか。ベテランと若手では勝手が違い、難しいかもしれないが、先輩のアドバイスやヒントを交流し、賢い時間の使い方を見つけてほしい。</p>	<p>・学校だよりは、月2回以上マチコミで配信し、カラーでも見られるようにしている。毎月5日、20日には地域の回覧板で回覧している。携帯電話では全体が見にくいのは確かだが、働き方改革の観点からも理解していただきたい。 ・教職員の働き方改革のためには、生徒指導事業を減らすことが大切である。チームによる未然防止、早期対応を心がけたい。 ・教材研究については、その学年を経験すると、必要なことがある程度分かる。経験するしかない部分もあるが、経験者の資料等を、誰でも使えるようにストックするなど、工夫していく。</p>